

鎌倉市教育委員会 令和3年9月定例会会議録

○日時 令和3年(2021年)9月22日(水)  
午前9時30分開会 午前11時13分閉会

○場所 鎌倉市役所本庁舎4階 402会議室

○出席委員 岩岡教育長、下平委員、朝比奈委員、長尾委員、林委員

○傍聴者 2人

○本日審議を行った案件

日程1 報告事項

- (1) 教育長報告
- (2) 部長報告
- (3) 課長等報告

ア 鎌倉スクールコラボファンドの取組について

イ 鎌倉市教育委員会 note の開設について

ウ 鎌倉市立学校における臨時休業にかかる専決処分の報告について

エ 鎌倉版コミュニティ・スクールの推進状況について

オ 「かまくら ULTLA プログラム」について

ウ 行事予定

(令和3年(2021年)9月22日～令和3年(2021年)10月31日)

日程2 議案第14号

鎌倉市教育委員会職員の人事について

岩岡教育長

それでは定足数に達したので、委員会は成立した。これより9月定例会を開催する。本日の会議録署名委員は林委員にお願いをする。本日の議事日程はお手元に配付したとおりである。なお、日程2議案第14号「鎌倉市教育委員会職員の人事について」は、人事案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により非公開にしたいと思うが、異議ないか。

(異議なし)

岩岡教育長

異議なしと認め議案第14号については非公開とする。それでは日程に従い議事を進める。

## 1 報告事項

### (1) 教育長報告

#### 岩岡教育長

前回の定例会は8月18日であったが、9月になり2学期がスタートした。この2学期はスタートの時点から緊急事態宣言という状況であったので、感染予防をしながら学校教育をいかに継続していくのかという点と、新型コロナウイルスが不安で学校に出て来られない子どもに対して、どのように学習支援をしていくのかが大きなポイントとなったと考えている。各学校では概ね子どもは登校していたのだが、大体1%から2%くらいの子どもの登校が不安で出席停止扱いということでお休みになっている状況があると考えている。学校のICT環境、特に通信環境が整わない中、各学校においてどのようなICTを活用した支援ができるのかを考えていただいたが、現場の苦労もあったと思う。通信環境については工事もしており、第1段階の改善が見られている状況だと聞いているが、引き続き現場は感染対策と教育活動の継続を両立しなければいけないという大変な状況であり、教育委員会事務局としても、しっかりと現場を支えていければよいと考えている。もうすぐ緊急事態宣言が解除される見込みもあるが、その場合にどのような教育活動をしていくのかということについては、また皆様に相談したいと思っている。

2点目であるが、今日の報告事項を見ていただきたい。少し横文字が多いが、教育委員会がこれまでずっと取り組んできたことに加えて、今回はこの1年間新しく始めたことに関する報告事項がたくさん入っていると思う。スクールラボファンド、鎌倉市教育委員会のnoteという広報手段、コミュニティ・スクールの進捗、かまくらULTLAプログラムということで、色々入っているが、なぜこれを行っているのかというWHYの部分、ストーリーをしっかりと把握することが大事だと思っている。思いつきでやっている訳ではなく、意味があってやっているものであり、先日教育委員会の事務局で集まり、今私たちがやっていることはどういう意味があるのかということ再度確認する場を設けたのだが、その中で共有したことの1つは、子どもの視点に立った教育を作ることである。ここでいう子どもの視点に立つということは2つの意味を含んでおり、1つは今の子どもの心情や特性に寄り添った教育を行っていくということである。個別最適な学びという言い方をされることが多い。今の子どもの心情に寄り添う、特性に寄り添う、そこに最適な学習法を提供することがすごく大事である。もう1つは、子どもは将来大人になるので、子どもが将来大人になった時にどういう社会に飛び込んでいき、どのような力を付けなければいけないのかを将来の姿から逆算して考える。子どもの将来の在り方、必要性、デマンドから、逆算する教育を子どもの視点に立った教育の1つだと思っており、その2つの視点から見ると、今やることが繋がってくると思っている。例えばスクールラボファンドの時にあったが、子どもが将来どういう社会に飛び込んでいくのかということから考えると、プログラミングや課題解決の学習など、たくさんやってあげたいことがある。ただ学校だけではリソースが足りないといった時に、その間を埋めるものとして外部と連携して教育活動ができるようにしたいということである。これは将来の姿から逆算する教育の実現の1つであると思うし、またULTLAプログラムについては、むしろ子どもの今の心情や特性に寄り添った教育活動をしっかり作っていくという対策になる。子どもの認知特性、学習特性をしっかりとアセスメントしながら、そのアセスメントの結果を生かして、自分なりの学習の在り方というものを実現できる場を作るといったような、まさに子どもの今の在り方に沿った教育の1つの形としてデザインをしているものである。またこうした取組のストーリーを発信して、皆様にファンになってもらったり教育をしてもらったりすることは教育活動では非常に重要であるので、noteというストーリーを発信するのに非常に有効な方法、媒体を導入しているということである。このようなストーリーを皆様と共有しながら、行き当たりばったりではなくて、しっかり筋の通った教育行政を行っ

ていけばよいと考えている。また個別の案件の際に委員の皆様から質問や意見等をもらい、それについても検討したいと思う。

## 長尾委員

先日、市町村教育委員会オンライン協議会に初めて参加した。300ほどの市町村の皆様が一斉に集まり、分科会形式で行うもので、私はコミュニティ・スクールの分科会と働き方改革の分科会に参加した。各市町村から5分程度で現状の報告をし、その後、質疑応答をしたのだが、特筆すべき点は、コミュニティ・スクールの分科会で、私から先ほどのスクールコラボファンドの話をしたところ、他の市町村の方から非常に興味深いと質問をもらった。皆様もやはりリソース不足に悩んでいて、その解決方法を見出す一助になると言っていた。私の方で返答できる部分が限られていたため、何かあったら事務局にと案内をしたのでよろしく願います。山口県周南市が10年ほど前からこのコミュニティ・スクールを積極的に取り組んでいるということで、まちと地域が学校の応援団だというようなキーワードでやっている取組であり、それについて聞かせてもらったのだが、成果を聞かせてもらってもなかなか分からない部分が多いようで、ここは個別につながっていきながら情報収集をしたいと思った。地域によって取組は様々なのだと勉強になったし、私ももう少しインプットを増やしていければと感じたオンライン協議会であった。

## 岩岡教育長

オンラインでしか開催できなくなったのはデメリットではあるのだが、逆に言うと全国の教育委員と議論がオンラインを通じてできるようになったり、少人数で気軽に話ができる環境になったということは素晴らしいことだと思うので、引き続きこうした機会を捉えて、皆様に出席していただければよいと思っている。

## (2) 部長報告

### 教育文化財部長

私からは現在開会中の鎌倉市議会9月定例会の概要について報告をさせていただく。会期については、9月8日から10月1日までの24日間である。今回20名の議員から一般質問があり、そのうち教育関係については9名の方から質問を受けたところである。まず後藤議員においては、コロナ禍における鎌倉市の医療・介護・障がい福祉というテーマの中で、子どもたちのコロナ禍における体力低下があるのではないかという視点で質問があった。千議員については、スケートボードによる路上での危険走行ということで、オリンピックで活躍された若者を契機に、スケートボードが活発になってきていることに伴う危険走行についての学校での指導である。千議員からはそういった場所の確保という視点での質問であったのだが、場所についてはスポーツ課が所管になるので、教育委員会とすると学校での危険走行に対する指導についての答弁をしたところである。前川議員からは、地域社会の担い手となる青少年の育成ということで、最後の出田議員の関係もあるのだが、かまくら子ども議会の在り方について、あとは鎌倉検定を活用した教育の指導、さらにiPadを活用した今後の取組ということで、相談等に活用できないのかという質問を受けたところである。納所議員については、学校教育におけるDXについて、DXの考え方や実際の現状、鎌倉市が取り組み始めたオンライン学習であるとか、デジタル教科書とか、そういった具体的な内容の取組状況についての確認の質問であった。竹田議員からは、特別教室の空調設備の設置の早期実現ということで、普通教室、図書室までは付けているのだが、理科室等についてはまだ付いてない状況について、授業の手法であったり、具体的な取組の早期実現に向けた質問を受けた。次にヤングケアラーの実態・調査法ということで、鎌倉市のヤングケアラーに関する実態調査をすべきではないかという質問を受けたと

ころである。次に井上議員であるが、コロナ禍での子どもたちのケアということで、子どもたちがストレスを抱えている状況の中で、どういった対応をすべきなのか、またその保護者の対応の仕方についてどのような周知を図っていくのかということと、環境作りをどのようにしていくのかという質問であった。高野議員については、図書館の運営ということで、耐震改修工事の概要と、陳情にも絡んでくるのだが、司書資格を持った職員の採用についてという質問があった。ICT教育が子どもたちに及ぼす影響と課題については、現状のICT教育の取組状況と活用についての内容で質問を受けたところである。藤本議員からは、不登校対策につながる子どもの居場所ということで、現状の鎌倉市教育委員会の対応、フリースクール等の連携についての質問を受けたところある。最後に出田議員であるが、7月に開催した第20回かまくら子ども議会での質問に対する市長または教育長の回答に対する再確認ということで、検討する、難しい状況であると答弁したものについて、再度の確認を議員の方からされたという内容である。

続いて9月13日、最終日に行われた本会議において、専決処分として実施した史跡環境整備事業については、専決処分の承認を受けたところである。

続いて所管の教育福祉常任委員会が9月14日に開催され、議案が1本、報告事項3件、陳情1件の審議を受けたところである。議案については、史跡大町釈迦堂口遺跡崩落対策事業等についての議案、これには予備審査を行っており、総務常任委員会への意見送付は特になかった。報告事項については、教育委員会事務の管理及び執行状況の点検及び評価、かまくら教育プランの取組状況、小学校給食費の公会計化に関する取組状況について了承されたところである。陳情については、司書資格を持つ正規職員の新規採用に関する陳情ということで、昨今技術職員として図書館司書職員を採用していない状況の中、採用すべきだという陳情であり、教育福祉常任委員会の中で審議をいただいた結果、不採択という形になっている。

続いて総務常任委員会について、補正予算の審議が総務常任委員会の所管になるので、教育福祉常任委員会で予備審査を行った史跡大町釈迦堂口遺跡崩落対策事業については総員の賛成を受けたところである。

2面に移り、今後の議会の概要であるが、私ども教育関係については、9月27日に決算等審査特別委員会が予定されており、ここで審議を受けて翌日の9月28日に決算等審査特別委員会の採決を受けたという流れになっている。最終日の10月1日については、補正予算、それと決算の認定、そして教育福祉常任委員会で不採択となった陳情についての最終的な採決が行われる予定となっている。

## 下平委員

議員から質問もあったということなのだが、先ほど教育長から子どもの今の在り方、特性に対応するという発言があった。学習など個々人の能力に対応するのもすごく大事だと思うのだが、心の面の現在の状況に対応するのも忘れてはならない側面だと思う。そういう視点からいくと、このコロナ禍で子どもは体にも心にも大きな影響を受けているのは間違いないし、それから最近よく問題になるヤングケアラーについて、この問題などもしっかりと実態を把握して、その子どもの心の影響、必要な支援をすることも大事なことだと思う。特にヤングケアラーや子どもの心のケアについての質問に対してどのような答弁をしたのかを伺いたいと思う。

## 教育文化財部長

ヤングケアラーについては、実態をどのように把握していくのかということで、竹田議員からは具体的に全体の調査を図り、まず実態把握をすべきなのではないのかという主旨で今回質問をされている。私どもとすると、ヤングケアラーに対してはどのような支援をしていくのかということをもっと先生方に理解をしてもらい、気づきを持ってどのような支援をしていくのか、子どもたちに寄り添っていくのが大事なのではないかとということと、全体に調査をかけるのではなく、子どもたちが困った時にすぐ何かを発信できたり、学校の先生が見取ったりで

きるような体制を作った方がよいのではないかという考え方を答弁している。具体的に子どもたちがどのように発信できるのかについては、例えば今1人1台のiPadを子どもたちに配っているため、それを活用して今後何かできないのかということを経済委員会の事務局の中で検討し、そういった支援につなげていく形を取ればと考えているところである。

## 岩岡教育長

補足をさせていただくと、現在、実態調査をしている自治体というのは、例えば隣の藤沢市が実態調査を行っている。これは学校を通じて教職員にアンケートを取ったという形のものである。ヤングケアラーを把握しているかどうかという視点でアンケートを取ったということなのだが、まずこうしたアンケートを取るにしても、ヤングケアラーとはどういったものか、どのような特徴が見られている子がヤングケアラーに該当するのかということに対して、教職員自身に知見がないと調査しても「あまりいません」という回答が出て来るだけなので、実態調査を学校や教職員を通じて行うこと自体が必ずしもケアの充実につながるとは限らないという観点から、教育委員会では生徒指導の担当者が集まる会議や教育相談のコーディネーターが集まる会議において、ヤングケアラーはこういう方々で、具体的に教育活動上こういう支障が出る、アセスメントシートはこういうもの、全国の実態調査はこういう結果が出ているというようにポイントをまとめて、まず認知の向上を図ることから取り組んでいるところである。その後どのようにしていくのかについては、教育委員会だけで考えるのは片手落ちだと思っており、小・中学生だけではなく、私立学校に通っている子どももいるし、あとは国立の付属に通っている子どももいるし、高校生もいるし、未就学児もいるので、そういった子どもが例えば母親が精神疾患で家事ができないとか、そういった状況が見られるとした時にどうするのかということもセットで考えていかないとけないと思うので、市長部局ともよく連携をして、どのような支援をするのかということとセットでの実態把握がすごく大事だと思っており、拙速に教職員向けのアンケートを取ってそれで終わりということではなく、本当に意味のある対応というのができるように考えていきたいと思っている。

## 下平委員

本当におっしゃるとおりだと思う。実態が分かったところで、それをどうするのができていなければ対応しきれないと思う。私の記憶する限り、6年位前であったか、鎌倉市にもそういう現状があって、手厚く教育長や校長先生が対応したという記憶が残っているのだが、現在は明らかにその時よりも増えている実態があると思うので、教育委員会だけではなく、鎌倉市としてそういった子どもたちをどう支えていくのかということが今後必要だと思う。教育委員も協力したいと思うのでぜひ積極的に対応するようよろしくお願いします。あとはコロナ禍である。体力の面も低下しているだろうし、人間にとって大事なつながる力が学べない現状をどうしたらよいのかということも非常に重要な課題であると考えている。

### (3) 課長等報告

#### ア 鎌倉スクールラボファンドの取組について

## 岩岡教育長

それでは次に課長等報告に移る。報告事項ア「鎌倉スクールラボファンドの取組について」、報告をお願いする。

## 教育文化財部次長兼教育総務課長

報告事項ア「鎌倉スクールコラボファンドの取組について」、報告をする。議案集1ページから3ページを参照願いたい。学校が外部の魅力的な人材・団体と連携することで、社会に開かれた教育課程を実現し、子どもたちにSociety5.0を生き抜く力を育むための資金とすることを目的とし、令和2年(2020年)12月から令和3年(2021年)4月まで寄付を募集した鎌倉スクールコラボファンドを活用し、令和3年度(2021年度)から小坂小学校及び玉縄中学校でSDGsをテーマにした課題解決学習に取り組んでおり、簡単に紹介する。まず小坂小学校では、NPO法人「みらいをつかむスタディーズ」と連携し、6月にはSDGsと自分を結び付けるワークショップ、7月には身近な課題から課題解決について考え、ワークショップを実施するなど、児童一人ひとりが設定した課題とその後の解決策の探求に取り組んでいくこととしている。また玉縄中学校では、慶応義塾大学SFC研究所と連携し、6月には自分の想いを起点としてアイデアを広げる発想のワークショップ、7月には環境ダイバーシティ、防災まちづくり、つながり、観光といった生徒の興味・関心ごとにグループに分かれ、生徒一人ひとりの問いを見つけるワークショップを実施するなど、大学生のメンターの伴走支援を受けながら、今後も探求学習に取り組んでいく予定である。このように両校ともSDGsをテーマとした教育に実績のある連携先から教育課程の企画、実施における支援を受けることで、魅力的な教育活動の創出に取り組んでいる。これらを先行事例として、今後とも学校が鎌倉スクールコラボファンドを活用し、魅力的な民間企業や大学、NPO等の外部機関と連携するための資金を継続的に確保していくため、令和3年(2021年)10月4日から12月31日にかけてクラウドファンディングを再度実施する。目標金額については前回と同様に750万円とする。今後、ふるさと納税サイト、ふるさとチョイスのホームページや各種SNS、チラシの配布等によって情報発信をし、広く寄付を募りたいと思う。先ほど長尾委員からも紹介があった全国に今回のスクールコラボファンドの紹介をしていただいたので、問い合わせを利用しながら周知につなげていきたいと思う。また鎌倉スクールコラボファンドの活用にかかる基本的な方針を定めるとともに、学校にとっても活用方法や活用事例が分かりやすく伝わるよう、教育総務課では活用のガイドライン及び手引きの作成を検討している。今後、学校や現場の先生方の意見や技術を反映しながら、ガイドライン及び手引きを作成することで、鎌倉スクールコラボファンドがさらに活用されやすい環境を整えていく。

(質問・意見)

## 岩岡教育長

議案集のチラシは昨年のもを参考でつけている。今年もまた別途作成しており、参考までにと考えてもらえればと思う。また、広報かまぐらの8月号でスクールコラボファンドを活用した今回の玉縄中学校や小坂小学校の取組を特集記事ということでコラムを作っているの、そちらもぜひ見てもらえればと思う。

## 下平委員

市民の協力や企業の協力が得られて、とてもよい試みだったと思うのだが、先ほど引き続きこのスクールコラボファンドを利用したいという声が学校から挙がっているということを伺ったのだが、実際にやっている学校の感想はどうか。それから他の学校でこういうことならぜひうちの学校もというような状況があるか伺いたい。

## 教育文化財部次長兼教育総務課長

昨年度スクールコラボファンドを実施している小坂小学校、玉縄中学校の課題解決への学習については、現在継続的に実施しているところである。学校の方からさらに引き続き来年度についても同じ様な形で実施したいという声はいろいろと出ている。これから手引きやガイドラインを作成する中で、いろいろな事例を用いて各学校

に紹介をすることによって、各学校の今後実施していきたい取組などを提示してもらい、ヒヤリングをしながら、来年度予算要求につなげていこうと考えている。

## 岩岡教育長

私からも補足すると、教職員レベルでは「あそこの学校のあれ、うちもやってみたい」ということを考えている先生がぼつぼつといると聞いている。あとはそれを学年の取組にしたり、学校としての取組にしていくということがスクールコラボファンドの活用にあたっては大事なので、そこにひとつハードルがあると思う。「こんなふうに乗越えたよ」や「こんなふうにやっているよ」という事例を紹介しながら、先生方の想いが学年や学校に広がるように、指導主事などの相談に乗ってもらいながら広げていきたいと思う。

あとはこのSDGsの課題解決型学習だけでなく、先生方がやりたい実践がいろいろあるので、ボトムアップでやりたいことがたくさん出て来るように現在手引きを作っている。私たちが予想もしないような取組が出てきてくれたらうれしいと思っているところである。現在行っているところに関しては教育活動自体は自分たちの想像だけではできなかったことが実現できていることに対して満足感を感じている先生方も多いのだが、なかなか外部との連携にチャレンジするのが初めてだったりして、難しさを感じている実態も当然あると思うし、先生間の温度差もあったりということが現状としてあるとは思っている。しかし子どもたちは非常に積極的に参画しているし、自分の問いを考えることで普段と違う教育活動を展開している。まだ始まったばかりなので2学期から本格実施であるが、充実感を感じてもらっているというのが学校に行って感じる場所である。

## 林委員

現場にいた者としては、その時代はすごく古いのだが、子どもがやってみたいとか知りたいというつぶやきがあっても、教職員は意外と狭く、自分のやってきたものの中で動いているので、本当に社会とのつながりがあるようで無いようなことも多いのである。この時代になってこういうこと取組があることによって、子どもが知り合えたことを先生が気づいて、気づいたものをそこで「ちょっと無理だね」ではなくて、事務局の方に少しつぶやいていただくことで、「こんなことができますよ」と、一番学校が引かかるのがお金のことで、それから人材なのである。少し話がずれるのだが、研修の講師なりとも、なかなか視野が狭くて、よい先生がたくさんいらっしゃるのだが、学校の方から「この先生お願いします」というところまで、なかなかさぐりが入れられないこともあり、そういう時にこういうものでいろいろな選択肢を作ることで、学校がちょっとつぶやくだけで「ありますよ」と言えると、非常に視野がよいものになると思う。

それから先ほど教育長が言ったようにクラスのものではなくて学年のもの、学年のものではなくて学校全体のものに広がっていきけるようなものを皆様も学校側も話し合っていくのが大事だと思う。今、鎌倉研究発表が近くなってきており検討中なのだが、担当が発表するパワーポイントの中にこの内容も組み込まれていて、それを聞いた他の学校の先生が「ああ、そうか」と広がっていくのかと思い、ぜひそのパワーポイントを本当はリアルでやってほしいが、配信等で皆様に聞いていただいて、研究の成果だけではなく、その研究の中で気づきということをもっと私もうるさく言っているのだが、その気づきが授業だけでなく、未来社会に向けての気づきも先生が拾えるような土壌を作っているからこそ玉縄中学校の次の授業もまたやりたいと言っているのではないかと思うので、そういった先生方が生の声の発表をできる場を作っていけるとよいと思っている。

(報告事項アは了承された)

## イ 鎌倉市教育委員会 note の開設について

### 岩岡教育長

それでは報告事項イ「鎌倉市教育委員会 note の開設について」、報告をお願いします。

### 教育文化財部次長兼教育総務課長

報告事項イ「鎌倉市教育委員会 note の開設について」、報告する。議案集 4 ページから 5 ページを参照願いたい。現在教育委員会では、広報かまくら、市ホームページの他に、Facebook や Twitter、YouTube などのソーシャルネットワークサービスを利用し、市民等に対して情報の発信を行っている。しかしながら、これらの SNS で発信した情報は即時性、拡散性などがある一方、発信した情報が時間とともに他の情報に流されてしまうという側面もある。そこで、これまでに教育委員会が発信してきた情報を集約するとともに、個別の情報を連続性、ストーリー性を持って伝えるためには、情報の発信とストックが同時にできる広報媒体が必要である。そこで 9 月 16 日から「鎌倉市教育委員会 note」を運用開始した。議案集 4 ページに記載の URL を開いてもらいたい。note 社が運営する SNS 「note」は、発信した情報をアカウントごとにストックできるだけではなく、同じカテゴリーの記事をマガジンとしてまとめることができるため、個別に発送した情報を連続性、ストーリー性をもって伝えることが可能である。この note を活用して、学校教育や図書館、文化財などに関する情報を提供することで、市民の皆様をはじめ、より多くの方に鎌倉の教育を応援していただけるよう取り組んでいく。

(質問・意見)

### 岩岡教育長

note 開設については鎌倉市が広報戦略ディレクターの方を雇って一緒に行っており、その方と一緒に議論しながらブランディングから作ってきたもので、すごく思い入れがあり、教育のスクールコラボファンド、これから行う ULTLA のようなものを広報していくことに加え、図書館や文化財の情報発信も非常に期待が持てると考えている。情報を能動的に取りにいこうと思い、文化財のことを一から、例えばミュージズチャンネルのチャンネル登録をするというのではなかなか広がっていかないということもあるが、こういった鎌倉市や鎌倉市教育委員会の note という形でまとめることで、教育に関心があって読みにきた人が、「文化財のこの記事、すごく面白い」、「図書館のレファレンス事例が面白い」と、横に拡散をしていく力もあると思っている。実際に今回 note の開設に合わせて図書館がレファレンス事例、鎌倉の古い地図の話という記事を載せていて、非常に面白い質の高い記事になっている。このために新しく記事を作るとなるとそれはあまり持続可能ではないので、文化財課であれば今やっているミュージズチャンネルや Twitter などでも発信を行っているし、図書館であればレファレンス事例もそうであるが、鎌倉の写真を Twitter でつぶやいたりしてるため、そういったものをこの note にストックをしていくということで、ストーリー性とストック性というものを存分に生かした発信ができるのではないかと考えているので、ぜひ皆様も積極的に閲覧していただき、もし教育委員も何かコラム等を記事にしたいということがあればお伝えいただければと思う。

### 下平委員

今の説明を受けて、発信だけではなくストックというのがこの note の特徴だということはよく分かったが、この note がどのくらい拡散性があるのか、活用されつつあるのか、広がっているのは聞いているのだが、その辺りを分かったら教えて欲しい。



## 岩岡教育長

note という SNS 自体の発信力ということか。これは長尾委員が詳しいのではないかと思うのだがどうか。

## 長尾委員

ビジネスの世界では少しずつ広まっているという実感があるが、一般市民はなかなか note という存在の認識はないのではないかと考えている。私も主婦であるがママ友の中では note を使っている人はゼロである。ただビジネスの世界では大分使われてきているし、ストックコンテンツとしてブランディングに活用する企業が増えてきている。今後は年齢層が上がり、使用者が増えていくのではないかという目論見で、広報戦略ディレクターもおそらくそういう未来を見ているのではないかと考える。

## 岩岡教育長

ちなみに今回の議案の報告を受ける前に、なにか note の記事を見たことあるとか、読んだことがあったという方はいるか。今 note の年齢層はかなり若いということと、これからじわじわ広がっていくというところで、自治体として note を始めているところというのはそれほど多くはないと思う。先がけは東京都である。東京都が自治体版 note を始めて、かなりの記事が出てるが、鎌倉市も新しいということで、日本経済新聞にも載ったことがあるが、まだ先がけだと思う。そのため Twitter などの発信をやめるのではなく、Twitter で発信しながら note にリンクを貼るなど、フローの情報媒体からストックの情報媒体に飛べるような仕掛けをしっかりとデザインしていくことで、note を普段見ない人でも見ていただけるのではないかと考えている。

## 下平委員

前からその note を活用している個人や企業を知っているのだが、ある意味ストック性があることに怖さもあるため、その辺りは少し注意も必要かと思う。それは皆様もししっかりと確認していけば問題ないと思うのだが、よろしく願います。

## 岩岡教育長

まさに note は鎌倉市のホームページと違い、語り口がライトなスタイルで統一しようと考えているため、例えば5年経ち、10年経ち、あの時ああいうことを言っていたということが問題になったりするリスクがあると思うので、鎌倉市教育委員会も教育総務課の教育企画担当が編集デスクという形で、記事を全体的に校閲してリリースをするという体制で、リスクマネジメントをしながら記事を投稿できるようにしていきたいと思う。

もしこういうコンテンツもあったら面白いのではないかと、というご提案があったら、随時私の方に教えてもらえれば考えていきたいと思う。

(報告事項イは了承された)

### ウ 鎌倉市立学校における臨時休業にかかる専決処分の報告について

## 岩岡教育長

次に報告事項ウ「鎌倉市立学校における臨時休業にかかる専決処分の報告について」、報告をお願いします。

## 学務課担当課長

報告事項ウ「鎌倉市立学校における臨時休業にかかる専決処分の報告について」、説明させていただく。本件については、本来教育委員会の会議に提案すべき事項であるが、急を要することから会議に提案する時間的余裕がないため、鎌倉市教育委員会事務の教育長への委任等に関する規則第2条第2項の規定に基づき、教育長による専決処分をもってその事務を代理したことを報告するものである。議案集の6ページを参照願いたい。新型コロナウイルス感染症対策については、文部科学省の通知等に基づき、鎌倉市立小・中学校では様々な対策を講じてきているところであるが、この度鎌倉市立学校の児童・生徒について、新型コロナウイルス感染症陽性との知らせがあった。そのため、教育委員会では鎌倉保健所からの情報をもとに学校長と協議を重ねる等、慎重に検討を行った。その結果、同校児童・生徒の感染リスクを軽減させ、その健康を守ることを第一とすべきとの観点に基づき、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）第20条の規程に則り臨時休校をすべきとの結論に達し、令和3年（2021年）9月7日及び9日に鎌倉市教育委員会教育長による専決処分を行ったところである。

次に専決処分をした一斉臨時休校の期間等について報告する。対象校は2校である。子どもたちの人権に配慮する必要があるため、これまでと同様に学校名及び学年は公開しない方針としている。1校目は全部休業を令和3年（2021年）9月8日に行った。またその翌日の9月9日については、1学年に限った一部休業を行った。なお、教育委員会では学校の教職員とともに校舎内の消毒を行った。また、指導主事を派遣しICT等の学習支援及び電話対応等を行った。2校目は全部休業を令和3年（2021年）9月10日に行うこととともに、学校の教職員が校舎内の消毒を行った。いずれの学校についても、濃厚接触者としての検査結果及び濃厚接触者が万が一陽性であった場合の濃厚接触者の対象拡大の有無を判断するのに時間を要するため、全校を休業したものである。

（質問・意見）

## 岩岡教育長

臨時休業は2段階であると思っている。1つは感染者が発覚した場合に保健所の調査が済むまでの間、どこまで感染が広がっているかを確認するというプロセスでの臨時休業と、実際に学級閉鎖が複数学年に渡ってしまっているようなケースで、校内での感染が広がっている蓋然性が高いという時に行う臨時休業となるが、今回ご報告を差し上げたのは、1段階目、感染状況の把握のための臨時休業を行ったケースということである。

（報告事項ウは了承された）

## エ 鎌倉版コミュニティ・スクールの推進状況について

## 岩岡教育長

それでは次に報告事項エ「鎌倉版コミュニティ・スクールの進捗状況について」、報告をお願いします。

## 教育指導課長

報告事項エ「鎌倉版コミュニティ・スクールの進捗状況について」、ご説明する。資料は7ページ、8ページを参照願いたい。令和4年度（2022年度）にモデル校となる中学校区の設置、令和7年度（2025年度）には全中学校区設置に向けて、現在検討を進めているところである。鎌倉版コミュニティ・スクールとは、よりよい学校教育を通じて社会を創るという目標を共有し、社会と連携、協働しながら未来の作り手となるために必要な資質能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて地域と学校が協働し、社会総がかりで課題解決に向かって

取り組むといったものになる。鎌倉版コミュニティ・スクールを設置する目的は4つある。1番目は社会に開かれた教育課程の実現、2番目として目指す子ども像を地域、家庭、学校で共有すること、3番目に学校が保護者や地域住民と連携・協働すること、4番目に小中連携を図ることである。また、鎌倉版コミュニティ・スクールの機能については以下の4つとなる。学校運営基本方針の承認、地域学校協働活動、学校関係者評価、学校運営に関する意見ということで、ここにあたるコミュニティ・スクールの委員については、当事者意識を持って協議するといったようなことが求められてくることになる。コミュニティ・スクールの委員の構成についてはどのような方かというところについて、校長先生の推薦により教育委員会が選任をするといった形となる。中学校区の規模により、20名以内という構成で任期は2年間。多様な意見を幅広く求められるようメンバー構成には留意が必要だと考えているところである。今回初めてこのように報告をするとともに、検討を数年前からやっていたところではあるのだが、いよいよ具体化して進めていくところ、それからモデル校についても考え始めているところであり、今後進めていくところである。

(質問・意見)

### 長尾委員

オンライン協議会でも話題になったのだが、他市の教育委員から、この取組をすると地域の方が学校の教員や校長先生の評価をすることになり、これは避けたいので協働したくないという意見を持っていると聞いたのだが、実際、その教員の評価まで行うのか。

### 教育指導課長

実際のコミュニティ・スクールの設置に関しての要綱と規程はこれから整備していくことになるが、確かに地域、コミュニティ・スクールによって、学校内人事などについて意見を述べるができるという話もある。そういった部分については当然自治体独自で設置した要綱であったり、どういったことをやっていくのかを決定することも踏まえて、広く意見を吸収しながらやっていくことが当然大事なことである。逆に言えば学校にも負担をかけないようにであるとか、そのあたりは十分気を付けながら設置する条件など、そういったものを今後は配慮できればと思う。

### 岩岡教育長

少し補足をさせていただくと、コミュニティ・スクールというのは法律で学校運営協議会として位置付けられているものになるのだが、その法律に位置付けられている権限の1つに人事に関して意見を述べるができるというものがある。これが全国のコミュニティ・スクールをやるかやらないかの判断にあたって考えあぐねている地域や学校にとって、1つ足枷になっているということもある。例えばこの先生が嫌だから飛ばして欲しいとか、有り体に言えばそういう意見が出るのではないとか、校長先生を変えて欲しいとか、そういったことがあれば学校運営が立ち行かなくなるので、なかなかそこは難しいという声が多いとは聞いている。実際に学校運営協議会を設置しているところの話を見ると、そういうことではなくて、例えば交流活動などをするにあたって、そういうことが得意な先生に来て欲しいとか、前向きな意見が出るのが大半であるということである。現在鎌倉市が考えている鎌倉版コミュニティ・スクールは、法律上のコミュニティ・スクールとして正確に位置づける手前の段階、自治体独自のコミュニティ・スクールという形でやってはどうかという案を検討しているので、人事等について直接的な意見を述べるができるような機能というのは、今は俎上には上がっていないという認識はしている。

## 下平委員

現状は学校評議員制度である評議員がいるかと思う。それを無くしてこちらに移行するののかということと、今意見を伺って安心をしたが、どういう人になってもらうのかということと、どういった役割なのかという認識を当初からしっかりと持って臨んでいただかないと、話がずれていくことになると思う。やはり子ども不在の学校、地域になってはいけないと思う。大人たちが自分たちの思いで意見を交換するということになる、本当に迷走しかねないという意味で、そのあたりが非常に重要かと思う。考えているとは思いますが、どういう人になってもらうのか、なってもらいたいのか、そしてその方々に何を期待するのかということをしかりと作っていく必要がある。さらには本人たちにも認識してもらわないと、例えば評議員でも式典の時だけ出て来るようでは互いにもったいない。その辺は明確にしておいて欲しいと思う。

## 教育指導課長

コミュニティ・スクールはどういうことをイメージしていけばいいのだろうということを理解するのがとても難しいと思っている。教職員にとっても負担ばかり増えるというイメージだけになってしまうので、その辺りは少しずつ払拭しながら、こういったよいものができあがっていくと、子どもたちの成長につながる、もしかしたら地域の活性化につながる。そういったことも当然イメージしながら進めていかなくてはいけないものだと考えている。1点目にあったのは学校評議員とこのコミュニティ・スクールの委員というのは、当然役割としてかぶる部分が多々あるので、基本的には移行するイメージになるかと思う。そのため市内では学校評議員をやっている地区がある一方、他方ではコミュニティ・スクールモデルとして始まっていく地区があるといった状況がしばらく混在するようになるというのが今のところのイメージである。それから地域の方もコミュニティ・スクールの委員の役割としっかりと認識をいただくことがとても大事であることと、その中に地域のコーディネーターということで、一人リーダーを作って、その方には実際、報酬としてお金を払うことになるのだが、地域の取りまとめ役をしてもらおうと考えている。その方が実際の学校の現状であるとか、要望であるとか、地域の課題であるとか、そういったことを集約しながら、コーディネートをしてもらう。そんな役割の方がとても大事になると考えている。このコーディネーターを含めたコミュニティ・スクールの委員の方々にも、こういう役割で、こういうことを学校と一緒にやっていきたいという説明会や研修を考えているところである。子ども不在でやっていくのは決してあってはならないので、子どもたちが将来に向けてどういったことが大事であるのかをしかりイメージできて、互いに共感してやっていける、そんなコミュニティ・スクールを想定している。

## 岩岡教育長

下平委員の指摘は本当に核となる一番大事なところだと思っている。何のためにコミュニティ・スクールを入れたのか、委員はどういうミッションを持っているのかをしかり伝えることは本当に大事だと思っている。中核となるアイデアとしては、ご意見番からチームの一員へという考え方だと思う。学校が今、こういうことをやっているものに対して、こうしたらいいのではないかという意見を述べるのではなく、こういう課題があるというところを一緒に受け止めて、私たちはこれをしよう、学校はこれをしようと一緒に課題解決にあたって考えてくれるチームになっていくための仕組みにしていきたい。学校評議員は法律上の機能として校長に意見を述べる場として設定をされているので、どうしても校長に意見を述べるという機能が中心になってしまうのだが、コミュニティ・スクールはそこから一歩進んで、一緒に考えるチームになってもらいたいと思っている。私も指導主事と一緒に東山田中学校のコミュニティ・スクールを実際に見に行ってきた。どういう形でやっているのかと拝見したら、すごく象徴的な事案が1つあった。生徒指導担当の先生が話をするという回だったのだが、その場で

生徒指導担当の先生が新型コロナウイルスの影響で子どもたちが高校見学に行けないと課題のフォローをする訳である。学校としては、学校が何をやっているかではなく、課題のフォローをするのである。YouTube でいろいろな学校案内のビデオとかパンフレットを見たりすることができるけれども、学校に行ってみないとその学校の雰囲気分からないため、高校はどこを受けるかということ子どもたちがなかなか決められず考えあぐねている状況であると話をした。そうしたらコミュニティ・スクールはそれを受け止めて、「保護者で何人か人数を集めて、特定の高校に見学に行きたいという要望を出したら、喜んで受け止めてくれたので何人か集めて行きたいと言ったら、学校見学に行かせてもらえるのではないか」という意見が保護者から出た。そしてコミュニティ・スクールの委員で、分担を決めて、どの学校は何人、どの学校へ行きたい人、と募集をかけて、ツアーを組もうではないかということで、実際に動き出したということがあった。これはご意見番だったら進路指導で高校選びは難しいということに対して、「では学校は何をやってくれるのか」「こういうことをやったらどうか」「ああいうことをやったらどうか」ということを受け止める場になる訳であるが、チームとして一緒に考える場であったら「では私たちはこういうことを聞いたから、こういうことをやってみよう」となっていくのである。そのためには実際に地域で動ける方、実際に考えて動ける方が委員になっていただく、というのはすごく大事だと思っており、その辺りの考え方は学校に丸投げするのではなく、教育委員会も一緒に発信したり、考えていけたらよいと思っている。私が教育委員会から選任する形にしたのはまさにそこである。校長が選任をするのではなくて、教育委員会が選任をする形にしたのはそこに狙いがある。

## 林委員

このパンフレットを見せてもらい、これは前からやっている、というところが多々ある。教育長が言ったような大それたものではないが、地域の中でも、「これはできる」、「これを持ってくる」など、そういうやり取りは昔からやってきたものだと思う。ただこれがコミュニティ・スクールという形になり、方針や評価など、そういう難しい言葉で形作ったものでいいのかと私は思っている。各学校の先生方の意識も地域とつながらなくてはならない。縦のつながりは、基本は学習指導要領に沿った学びだと思うのだが、社会に開かれた教育課程の横のつながり、その地域社会に各地域の模様であったり色が作られるということで、地域社会というのはすごく大事だと思う。それを何十年も私たち教職員はやってきた。それが形になり、今は教育委員会もあってという中で、指導者が学校単位ではなくなっている。今までやっていたことが少し楽になる、厳しい目で見られるのではなくて、先生方が楽になるのだというイメージで下ろしてもらえると、「今までどおり自分たちはやっていたらいいんだ」、「地域のことを考えてくれたものを一緒にやっていたらいいのだ」とか、プラスアルファになったというイメージを是非発信してもらえると、各学校、おそらくいろいろな形で取り組んでいるはずなので、うまく進むのではないかと思っている。

## 教育指導課長

本当にそのとおりだと思っている。昨年自分が教頭をしていて、コロナ禍で地域とつながりを持つことがあまりできなかったのだが、もしこういった制度がなく今までどおりやっていたならば、先生たちはどう動いていたのか、教頭としてどう動いていたのか、という目で見ると、先生たちは子どもたちにいろいろな体験学習をさせたいために、いろいろな場所に各学年の各担任が電話をして、一生懸命相手にコンタクトを取るのである。それがいつできるのかというと、放課後にしかできないのである。6時間授業をやった上で放課後によやくその時間を取ってやっているという姿があって、これはすごく大変だと思った。それで上手く日程調整が取れないと、「あと教頭先生、お願いします」と言われるような感じであった。教頭先生が一生懸命地域とつながっていく。そんなイメージがあった。今回大きく違うところが、地域のコーディネーター役に、それぞれの専門的なポジシ

ョンを理解してもらって、「私に任せておけば、あとはそちらの方に話をしておく」という、そういう意味合いの立場を1つ作ることによって、大きく教頭の仕事、先生たちが各自でやっていた仕事、そういった部分を大きくフォーカスできるかと考えているところである。もっといろいろな役割が出て来ると思うのだが、そういったところで協働していきましようというところを作っていけたらと思っている。

## 岩岡教育長

まさにプラスオンというよりも、今までやってきた取組がよりポジティブな方向で意味のあるものになっていく仕掛けであるということをしっかり先生方にも伝えていきたいし、何より学校管理職が自分の言葉で語れるようにするということがすごく大事だと思うので、だからこそ一斉にではなくて、モデル校からしっかり足場を固めていくという形を取っているの、まずはモデル校となる先生方からしっかり自分の言葉で語れるように一緒に情報共有等をしていきたいと思っている。

(報告事項エは了承された)

## オ 「かまくら ULTLA プログラム」について

## 岩岡教育長

それでは次に報告事項オ「かまくら ULTLA プログラムについて」、報告をお願いします。

## 教育センター所長

報告事項のオ「かまくら ULTLA プログラムについて」報告する。議案集9ページから11ページを参照願いたい。鎌倉市教育センターが実施するかまくら ULTLA プログラムにおいて、今年度の取組とスケジュールが概ね決まったので報告する。かまくら ULTLA プログラムは、不登校あるいは休みがちになっているなど、学校に通うのが辛いと感じている子どもに向けた3日間の探求プログラムである。本プログラムの目的の達成に向けて、不登校児童生徒の認知特性・学習特性のアセスメント及び探求的な学習プログラムの提供において専門的な知見を有する事業者に業務委託を行い参加者一人ひとりが個性や特性に応じて自分らしく学んでいく方法を見つけることができるような学習支援を行っていく。参加対象者は、鎌倉市立小・中学校に通う小学校4年生から中学校3年生で、学校における学習に馴染めず不登校あるいは休みがちとなっているなど学校に通うのが辛いと感じている児童生徒で、3日間のプログラムに付添いなしで参加できるものとした。今後のスケジュールとしては、9月末からは各学校にて対象学年全家庭にチラシを配付するとともに、広報かまくらや市のホームページ等で周知を行う。参加を希望する児童生徒は、9月21日に開設される専用のウェブサイトからユーザー登録をして、参加を希望するプログラムへの申込みを行う。なお各プログラムの定員は20名までとしているが、新型コロナウイルスの感染状況によっては参加人数を絞る、オンラインにするなどの対応も検討していく。また抽選に漏れた児童生徒がいた場合には、希望があれば3日目のプログラムや成果発表会の参加ができるようにしていく。

(質問・意見)

## 下平委員

これはタイトルは「かまくら ULTLA」であったか。

## 岩岡教育長

もともと「鎌倉版 ROCKET」というアイデアで始まったものである。東京大学の先端科学技術研究センターがやっている異才発掘プロジェクト ROCKET というのがあり、そこにインスパイアされたところもあるのだが、特別な才能を持った子どもに対する才能教育ではなく、もっと子どもたち一人ひとりが特別な才能といわれる子でなくてもユニークな学び方があるはずであると捉えて、全ての子どもを支援できる体制を整えることが大事ではないかという考え方から、この ULTLA プログラムという名前にした経緯がある。ULTLA というのは、議案集の 11 ページの右下にある英語の頭文字をとったものになる。学びの最適化と評価による個性の開放という英語の頭文字を 1 つずつ取って ULTLA という名前にしたものである。おそらく全国的にも非常に新しい取組になると思う。こういった不登校の子どもに対して学習支援をするような取組はいろいろとされているが、学校に行きづらいと感じるようになった根本となる認知の特性、学習の特性に着目した支援というのが本当はできればよいのだが、それをきちんと評価する方法がこれまであまり無かったということもあり、手探りでいろいろな探求プログラムを行ったりしてきた。今回は株式会社スペースというところとタイアップをしてやるのだが、そのアセスメントを東京大学等とも共同研究をしながら、しっかり開発をしてくれている。しかもこのグーグルのアドオンとして、iPad を使ってアセスメントができるような形を作ってくれているので、現在鎌倉市で配っている子どもたちの 1 人 1 台の iPad 端末を使って、このアセスメントもできるような形を作ってくれている。アセスメント結果を受け取っただけでは行動はなかなか変わらないと思う。やはりそれを実際に試したり確認したりしながら、自分自身の姿に気づいていくという場所も併せて必要なので、アセスメントとワークショップの場とを組み合わせたプログラムとして開発をしたものになる。10 月 27 日からプログラムの一日目ということで、森とお寺と文化の会場では、浄智寺をお借りし、朝比奈委員にもぜひ参加してもらえればと思っているところである。

## 下平委員

新しい取組で前例がなく、とにかく蓋を開けてみないと分からないため、その状況の報告をいただきたいと思うのだが、対象者はどのくらいを見込んでいて、どんな手ごたえを今の段階で感じているのか伺いたい。

## 教育センター所長

なかなか見込みというのが難しく、令和元年度（2019 年度）の数字でいくと、鎌倉市は小・中学校併せて 250 名くらいの不登校の児童生徒がいる状況である。小学校 91 名、中学校 153 名ということで、そのくらいの不登校の子どもたちがいる。その中で、「ひだまり」に通えている子どもたちが 20 名ほどである。学校の支援によって、そこからまた登校ができるようになってきている子どもたちもちろんいるが、まだまだ拾いきれていなかったり、またこの不登校状態がいつどの子もそういう状態になるか分からないので、実際どれくらい来るのかやってみないと分からないと思っているのが正直なところである。

## 岩岡教育長

事例として申しあげると、東京大学が主催でやっていた ROCKET プログラムというものが、これは日本財団からお金をもらってやっているのだが、自治体ベースで ROCKET という名前を冠してやっているところもある。例えば渋谷区が渋谷区版 ROCKET という形でこういうプログラムをやっているのだが、渋谷区の人口は大体 22 万人であるから、鎌倉市より少し多いという状況なのだが、渋谷区版 ROCKET の参加申込みは、大体 1 プログラム辺り 10 数人というような状況であったと聞いている。ULTLA は 1 プログラム辺り 20 人という定員を掲げているが、それは渋谷区の事例から考えて、このような定員設定にしているものである。問い合わせもあるし、実際私もフリースクールの Largo の方に伺ったところ、ULTLA に参加したいという子どもの声を聞いたので、応募はあると

は思っており、鎌倉という地域性もあるので、渋谷区の事例を大きく超えて、応募がたくさん来てしまった場合はラインをどうするのかを考えなければいけないと思っている。参加人数に満たないよりは、参加人数を超えてしまうことの心配をしている状況である。

### 下平委員

不登校になると、学校はもちろんなのだが、保護者すら接点を取りにくくなる状況なので、子どもが何を感じて何をしたいと思っているのかを探るのはとても難しい。これをきっかけに出てきてくれた子どもたちの声が聞こえることで、今後何を子どもたちにしてもらったらいいのかということが分かるとよいと思うのだが、中には、ある意味上から与えられるという枠にはめられることに対する心理的抵抗とか、そういうことによって来られなくなっている子が結構いると思うので、大人たちが考えてよいというものを提供して、果たしてそれにフィットするかというのが難しいところでもあるのではないかと思います。これをきっかけにそういう子どもたちの生の声ができるだけ拾えるとよいかと思う。そういう意味では何か提供するだけではなく、同時にそういうことを寄り添って聞き取り感じ取るような方を用意してもらえればと思う。メンター的なものがすごく重要かと思う。

### 岩岡教育長

まさにそのとおりで、型にはまったプログラムをただこなすだけだと個人の個性の発現にならないし、子どもの心が動く活動が何なのかというのは実際にやってみないと分からないところがあるので、メンターを数人に1人つけながらそのテーマを決めているのだが、その中で具体的に何に取り組みたいのかということ子どもが自分自身で探求できるような形を作っていきたいと思っている。例えばここで言うと、竹で何かを作るという探求活動を行うアクティビティゴールがあるのだが、デザインを考えることを徹底的にやりたい子はその方向に行けるようにしたいと思うし、むしろ作るということに関心がある子は作るということを中心としたアクティビティにすればよいと思う。実は竹や椅子、または浄智寺の歴史や文化に関心がある子がいれば、それも受け止めて伸ばしていくという形であるから、何か特定のアクティビティゴールの型にはめてやるというよりは、子ども一人ひとりの探求目標に寄り添っていくような形をしっかり作っていきたいと思っている。

### 下平委員

今後のために私たちもできれば様子を見たりお手伝いできたらと思うので、時間等が具体的に分かればお願いする。

### 岩岡教育長

またそれは別途教育センターから連絡する。基本的にはこれは1日中ゆっくり時間をかける、時間をかけることが大事だと思うので、決まった45分、50分の中で特定の目標を達成しようということではなく、じっくりと考える時間があるということが今回のプログラムの特色の1つなので、夕方まではかからないかもしれないが、3時、4時くらいまでやっていきたいと思う。またご連絡させていただく。

### 朝比奈委員

話を頂戴した時に、禅寺で座禅の研修をするようなことではなくて、境内の趣きを味わって、何かもっとゆったりとした時間を過ごすようなイメージかと思っていた。ちょうど日程上に、私どもの浄智寺で10年以上恒例で行っているZEN映画祭というものをやっている。それはこの数年来、境内の竹を切ったりして、それでいわゆるモバイルシアターと我々は言っているが、隈研吾さんのところの東京大学の学生さんが参加してくれて、隈先



生は東京大学を退官されたので、別の大学教授になるが、そういったところで手作りの竹でシアターを作っている。日程上難しいのだが、肝心なところはその手前でそこに関わる、例えば鑑賞するためのベンチであるとか、装飾するものであるとか、看板であるとか、そういったものを作ってくれるのを何か工夫してくれたらよいと考えている。最終的には12月になるが、このあたりから映画祭が形になってくるので、そういう成果を味わってもらうこともできるし、あと心理療法士の方がお寺の境内に音を響かせるとか、単純に禅寺で禅修行をしてもらうのではないというところで、もちろん私も少しは関わらせていただくが、例えば前例として、かまくら寺子屋がずいぶん前から建長寺で研修会をしているのだが、ああいう形とはまた違う、あちらの中にはそれに似たプログラムも用意されているかもしれないが、たぶん違った形での表現、それこそ今教育長が言ったように、いろいろな型にはめないで、その場に来てもらい、見てもらって、気がついたことを伸ばすようなことをしていくのだと思う。いずれにしる時間割があって無いようなものになるのかと想像をしているが、そこは関わる会社の方が経験豊富な方々なので、信頼して任せようかと思っているところである。

### 岩岡教育長

場所の提供もさることながら、プログラムの作り方や映画祭の方とつないでもらえたりと、本当に朝比奈委員には大活躍してもらっており、当日まで一緒に走っていければと思っている。

### 長尾委員

250名という数字がすごく多いと思ったのだが、多い少ないではなく、今増えているかどうかは分からないが、この取組が250名の方々に届くために、学校にチラシを配付しているのだが、対象生徒は学校に来ていないので、その人に届くのかと少し思う。下平委員が言ったとおり、親の意見を聞かなくなる年齢の子どももいらっしやると思うので、できるだけそういう子どもに直接的に届くような方法がないのか考えている。私は今はアイデアがないのだが、そんなところも配慮してもらえればいいのかと思う。あとは3回行くということは非常にハードルが高い子どももいるのではないかというところで、離脱をしてしまった方へのフォローアップや、3回やったから終わりではなく、寄り添い型というか、せっかくここに来れたのだったらということで、もう少し次のところで私たちができる範囲がどこなのかというところもあるが、つなげていける取組があるとありがたいかと思う。

### 教育センター所長

確かに不登校の子どもたちの手にこれが届くかどうか分からないということで、今回学校には不登校の子どもたちに対するプログラムなので、各家庭にメール配信をもらう形で、まずはこういうプログラムが始まるということのお知らせを流してもらうところをスタートにしている。それから学校からチラシを配付してもらい、そして何とんでもこのプログラムで大事なものは、学校ときちんと連携をして、その子の居場所だとか、経験したことだとか、そういったことが生かされて、その子が自信を持って先に進んでいける一歩を作っていくことである。チラシについては、学校からいろいろなものを届けながら不登校の家庭とはつながっているため、その際に渡したりとか、参加が決まった折には、各学校で配付しているものなどの情報をもらいながら、プログラムが終わった後も、当日の状況などどんなところに興味を持って、心が動いて、いい笑顔が見れていたという情報を学校にも共有しながら、子どもたちと先生の話題の中で「行ったんだって、どうだった」という話から、広げてもらえるようなところを、きちんとフォローしていくことがとても大事だと思っており、そのようにして活動を広げていきたいと思っている。

## 岩岡教育長

補足として、保護者と子どもの間でなかなかコミュニケーションが取れないというケースもあるのかと思うが、全く保護者を介さずに子どもに直接届ける手段は少ないが、今回 ULTLA に関してはしっかりしたホームページを作ろうということで、9月27日にホームページの専用サイトがオープンする。そのためチラシにはあまり具体的なことはそこまで書いてないのである。チラシから例えば学校から配っている iPad を使って QR コードを読めば ULTLA のホームページに行ける形になっているので、チラシを保護者が子どもに渡すところまでやっていただくと、非常にかわいいものになっているので、なんだろうと思いホームページを見てくれるのではないのかという期待もっているし、学校になかなか来れていない子に関して、例えばフリースクールとかひだまりには来られている子には、フリースクールやひだまりにもチラシを送る予定でいるので、どんなチャンネルでも情報が取れるように情報発信していくことを考えている。

## 下平委員

今回やはり鎌倉のお寺、山、海を活用してということで始まるのだが、カウンセリングしていてもとかく引きこもりがちの人は人と太陽を感じ合うのに抵抗がある人がいて、オンラインでのカウンセリングなら受けられるという人もいるので、そういう子どもたちの多くはオンラインでの関わりでそういう活動だったらできるという人も多いのかもしれないし、あとはゲームをつくるなどそういうことに興味を持つ子が多いようなので、今後も先ほども言ったとおりの声も聞いて、色々なことを開発していけるようになればと思う。

## 岩岡教育長

現在新型コロナウイルスの影響で、本当に終息に向かうのかどうか分からない中では、オンラインのプログラムとしてデザインしてしまおうかという発想もあったのだが、どこをターゲットにするかが非常に難しいのだが、やはり3日しかないという中で、もしかしたら人生が変わるかもしれないという感覚を得られるような素敵な場所、リアルな場所でやるということを重視して今回は実際の場所でやろうということになった。なかなかそのオンラインでワークショップのプログラムを組むのと、リアルな場所で組むのとでは同時にデザインするのは難しいということが業者からもあり、また今回のプログラムをやってみてニーズ等も踏まえて考えていきたいと思っているのだが、今年についてはどちらか選ばないといけないという環境の中ではリアルな方をとったということである。

## 下平委員

今日出た全ての話題に関連することだと思うのだが、今個別最適ということが言われているが、それはとても大事だと思う。それから新型コロナウイルスの影響もあって、本当に私たちが密に人と関われないという社会性が抛出されていくという現状もある。人間にとって大事なものは一人ひとりの魅力と個性もあるのだが、やはり一人ではとても弱い存在として人間は生まれているので、つながる力、社会性というのは欠くことのできない力だと思う。その社会性というには何を学ばないといけないかということ、1つは理解と信頼をしっかり育める、話す、聞くというソーシャルスキルがあるかということが大事だと思う。そういったことが学べる場というのが家庭でそういうことを大切にしている家庭ならいいのだが、そうでなければ小学校はすごく大事な場だと思う。それともう1つはチームの一員だという自覚、組織の一員としての自覚、そして組織の中での自分の立ち位置、そういう感覚は実際のチームの中でしか学べないものがあると思う。身近な例でちょうど林委員と会話していたのだが、例えばその保護者の方が何か問題を感じた時に、まず校長に相談して欲しいのだが違う所にいってしまう現状が本当にいろいろなところで起こってしまっている。自分の問題をまず話しあって解決しなくてはいいな

いのは誰だろうというような、例えば子どもにとっても隣の人と揉め事が起こったら今ここで話し合わなければならぬのではないかという社会・他人との間との葛藤や、社会との葛藤を思った時に自分が誰とまずつながらなきゃいけないのかという核みたいなのがあり、これはやはり社会の中でしか養えない。今新型コロナウイルス感染症の影響もあって個別化しているが故に、SNS 上でも非常に問題になっているが、自分の存在を大切に確認しようとする、多分違いが際立ってくるし、それから他を批判することで自分を立てようという形にどうしても人間はなりやすいので、残念ながらそういう攻撃的な現状が、今社会の中に溢れ始めているというのもあると思う。そのため、学校の在り様というのは、その一人ひとりの能力を伸ばしてあげるといっても大事なのだが、特に小学校などの役割としては、そういう自分と他人というものの葛藤を、自分で解決できる社会的な力を学べる非常に大事なものである、そういうものを両輪として大事にしていく視点は絶対に忘れないでいきたいと思っている。

## 岩岡教育長

主体的、対話的に深い学びというが、ただ主体的で個別最適の学びだけになってしまえば、どうしても一人よがりであるし、また社会に対して何か価値を生み出すということであれば、当然他の人はどう思うか、どういう人と一緒にチームを組んでやっていけばいいかというのは非常に大事な学びなので、そこは本来小学校や中学校が得意としてきた学びであるから、そこを失わないような形で、個別最適というところに捉われ過ぎて孤立した学びにならないように取り組んでいきたいと思う。コロナ禍ではあるが、そのためにも体育祭や、そういった行事等もしっかりやっていくということが非常に重要なのかと思う。忘れてはいけない社会性のトレーニングというのも重要な柱だと思う。

(報告事項オは了承された)

## カ 行事予定

(令和3年(2021年)9月22日～令和3年(2021年)10月31日)

## 岩岡教育長

次に、報告事項のカ「行事予定」について、記載の行事予定で特に伝えたい行事等があればよろしく願います。

## 教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

私の方からは、博物館施設に関する取組について報告する。資料は行事予定表の14ページとなる。ナンバー32、33となる。鎌倉歴史文化交流館の取組が32である。こちらの企画展では、「頼朝以前 - 源頼朝はなぜ鎌倉を選んだか - 」というタイトルで展示を行っていく。こちらについては、令和4年(2022年)1月から放映されるNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に合わせ、博物館施設では北条義時、北条氏に焦点を当てた展示を行っていく予定となっている。鎌倉歴史文化交流館については、令和4年(2022年)1月から企画展を時間の流れに沿って、4つのテーマで行う。今回の展示については、普通の企画展以前の展示ということで、エピソード・ゼロ的な存在となる。展示については、9月25日から行う展示であるが、こちらはテーマどおり「頼朝はなぜ鎌倉を選んだか」というところで、頼朝が幕府を開いたことによって鎌倉が発展したというよりは、鎌倉の持つ都市の資質、素質というものが元々あったということを出土品を通じて迫っていきたいと考えている。

2つ目は33になる。こちらは鎌倉国宝館の展示である。こちらは、「間島弟彦と黎明期の鎌倉国宝館」という

展示になる。こちらについては、間島弟彦氏が生誕 150 周年を迎えるということで、青山学院大学との協賛事業となる。間島弟彦氏については、鎌倉国宝館の設立に多大なる功績を残した人物であり、この方の人物の紹介と功績を紹介してまいりたいのと、あと当時の鎌倉国宝館の在り方や展示の在り方についての姿を展示をしていきたいと思っている。鎌倉国宝館では特別展にあわせ、北条義時の企画としては、特集コーナーを設け、併せて展示を行っていく。

もう 1 つ緊急事態宣言等に関してである。こちらの方は資料 12 ページの 34、35 となる。講座のほうを 9 月 25 日と 10 月 30 日を予定しているが、現在、緊急事態宣言の解除の兆しが見えたところではあるが、こちらの方は再延期することとし、34 については、10 月 30 日、35 については 11 月 27 日に延期する。

### 教育指導課長

資料で教育指導課のところになるのだが、ナンバー 8 と 9 になる。昨年度に引き続きになるが、中学校音楽会を中止とした。学校と話を進めて、各学校等で学年等で取り組んでいくという形になっていくと思っている。緊急事態宣言中であり、なかなか一同に会するのが難しいということもあり、このような判断となった。それから 9 番、陸上記録大会も中止としている。これも藤沢駅を通りながら行くということで、ちょうどラッシュの時間等と重なるということや、集団で動く部分の公共機関を使ってということでの難しさがああり、各学校での取組で実施していく。

それからここに無いが、昨年度行われていなかった教育課題指定研究会というのがあり、この 10 月 11 月に 3 校が発表の予定をしている。まず林委員に一番に関わってもらっている玉縄中学校が 1 番の皮切りである。実はここに載せていない理由があり、実施の方法がかなり難しいというところで検討はさせていただいているのだが、日にちとしては 10 月 25 日に予定をしている。参加体制であるとか教育委員にもまた話をしたいと思っているが、この日に事業としてはやっといこうと現在学校として考えているところである。併せて 11 月 2 日には大船小学校、11 月 19 日には小坂小学校でそれぞれ予定をしている。また担当の指導主事の方から教育委員の方にも臨席もらえるかどうか等を確認するので、またよろしくお願ひしたいと思う。

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

### 岩岡教育長

それでは日程の 2 は非公開となるので、傍聴者及び関係職員以外の職員の退席をお願いする。

---

非公開

---

## 2 議案第 14 号 鎌倉市教育委員会職員の人事について

---

### 岩岡教育長

以上で、本日の日程は全て終了した。これをもって、9 月定例会を終了する。